

## 介護老人保健施設 メディケア別府 口腔ケアの取り組みの紹介

口腔ケアは口腔環境を良好にするだけでなく、歯周疾患・誤嚥性肺炎などの予防・QOLの向上につながると言われ、当施設では協力歯科医の指導により、当施設に所属する歯科衛生士（認定歯科衛生士：摂食・嚥下リハビリテーション・在宅療養指導）が、**誤嚥性肺炎の予防**のため**口腔ケア**を行っています。また、歯科衛生士が職員に対し口腔ケアの指導を行い、入所者に質の高い口腔ケアが提供できるよう、職員が気持ちをひとつにして口腔ケアに取り組んでいます。

### 口腔ケアの取り組み・・・・・・・・

歯科検診（毎月）。

口腔機能維持管理体制加算・口腔機能維持管理加算。

歯科衛生士による口腔内の評価。

入所者の口腔状態に応じた歯ブラシ・舌ブラシ・義歯ブラシなどの選択。

入所者に対し、歯科衛生士による歯磨き指導・歯磨きの実施。

摂食嚥下・口腔ケア委員会による口腔ケアの取り組み。など・・・



### 結果・・・・・・・・

口臭・舌苔が減少した。

歯茎の腫れが減って、歯磨きの際、出血がなくなった。

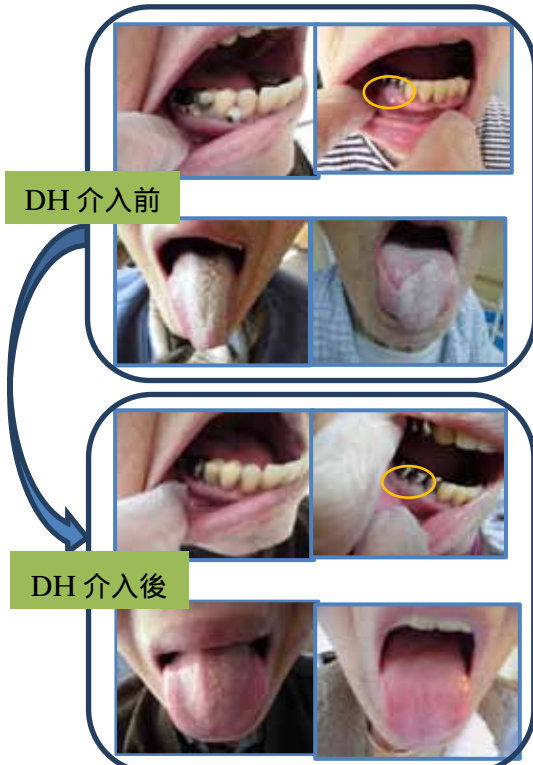
片麻痺の入所者が吸盤付ブラシを使って、歯磨きが自立できるようになった。

歯磨き習慣が身についた。

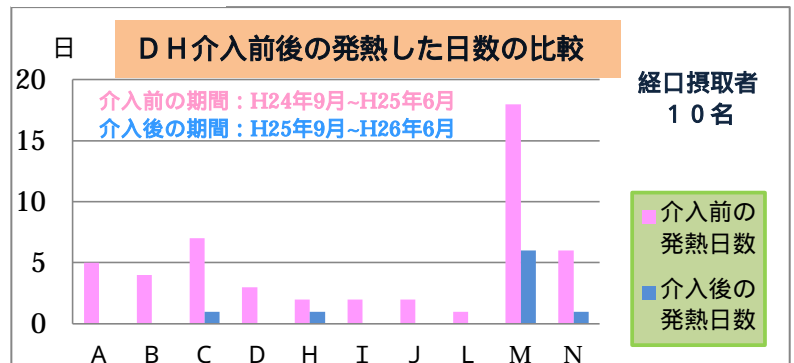
発熱する回数が減った……。誤嚥性肺炎の減少……。

口腔機能を高めるため、義歯を作成する頻度が増えた。結果、臼歯での咀嚼が可能となり、食事形態が向上した。など……（口腔機能が回復すると咀嚼が良好になり、栄養改善につながると考えられる。）

結果：例1



結果：例2



DH（歯科衛生士）が介入する以前（10ヶ月間）のCT検査の診断で、肺炎・肺炎疑いのある経口摂取者10人を対象に、DH介入前後の10か月間で、37.5度以上の発熱した日数の回数を比較した。結果、DHが口腔ケアに介入するようになり、発熱日数が82.4%減少していることがわかった。以上のことから、当施設の口腔ケアは、DH介入後、口腔ケアの質が向上したと考えられ、口腔ケアは当施設のひとつの特徴と言える。